

地域内での循環型社会形成に向けて ～自治体 SDGs への貢献～

日本ミクニヤ株式会社

営業企画事業部
 発酵分解技術プロジェクト担当

URL http://www.mikuniya.jp/technology/technology_mx.html

☎ 044-577-3928

✉ tokuoka@mikuniya.co.jp (東京)

✉ ohmori@mikuniya.co.jp (広島)

現状の課題

2016年1月1日に国連において、持続可能な開発目標(SDGs)が正式に発効しました。SDGsは、2030年に向けた持続可能な開発のための17の目標です。これにより、全ての国々はこの目標に基づき、今後15年間取組みを進めることとなります。SDGsに法的拘束力はありませんが、幅広い社会的なニーズに取組みつつ、地域に応じた社会問題や自然環境の保全を図る戦略が必要だとされています。

SDGsには、17の目標と169のターゲットが示され、政府のレベル対応に留まらず、民間企業なども事業戦略に位置付けた取組みが始まっています。

誰も置き去りにしないことを確保することが求められており、地方自治体としても自発的に取組む事が求められているといえます。

我国では、その目標の中でも気候変動に関する取組みが更なる目標ターゲットとしての設定も高く、まさに官民総出で取組むことが必要な項目です。

生ごみを使って循環型社会の実現へ

当社では、高温好気発酵分解技術を活用した装置「ミシマックス」を製造・販売・メンテナンスサービスを行っております。

お願い
 ミシマックスの概要については、「水道・下水道」の 카테고리 本誌 P.59 をご覧ください。

ミシマックスは、比較的減容化が困難と言われる下水汚泥について、24時間で90%超(弊社実証実験実績値)という高い減容化率を実現しました。その上つまり、下水汚泥に関わらず有機性の廃棄物であれば、生ごみや畜産糞尿でも処理可能という事になります。想定される導入先としては、学校や給食センター、あるいは病院、老人福祉施設や介護施設などにおける調理残渣や残飯を対象に想定しています。(内蔵している脱臭装置についても個別に導入可能です。)

地域やコミュニティ毎に生ごみを収集し、ミシマックスで減容化することで、運搬処理コスト、焼却処理コストが削減できるのみならず、残渣をは菌体肥料として農作物や花卉へ活用することが実現し、地域での循環型社会形成に繋がります。

また、輸送時の燃料、焼却処分に使用する燃料が削減可能でありCO2削減にも繋がることで地球温暖化対策としても貢献します。

また、地域に僅かながら雇用を創出し、コミュニティ形成にも寄与できる可能性があり、弊社としてもその可能性を実証実験で追及していく計画です。自治体様と連携する中で、実証実験の機会を頂ける場所があれば、そちらも是非、ご連絡をお待ちしております。

近年の異常気象や局地的な豪雨など気候変動は直感的に感じられる状況になりつつあります。政府任せにならないこの様な取組みは、自治体の付加価値に繋がります。ひとつひとつの地域によるCO2削減量は小さくても、多くの地域や自治体が取組む事で大きな成果に繋がるものと考えております。

人口減少の時代に入り、気候変動対策と地方創生をどのように並び立たせるか、地方ならではの特徴的な取組みにより、都市部の人口集積の進んだ地域とは異なった取組みを支援できればと思っております。

地域に密着し、地域のニーズにお応えできる企業を目指して取組んでおります。

導入想定

- 回収された生ごみの処理
- 給食センター等の調理残渣・残飯の処理
- 公立病院における調理残渣・残飯の処理
- 老人福祉・介護施設等の生ごみ処理
(脱臭装置のみの導入も可能です)
- 畜産における糞尿の処理
- 中間処理・最終処分業者様での減容化処理
- 残渣の堆肥活用で循環型社会形成として
- 焼却処分量削減によるCO2削減対策として